



会員寄稿

## あけましておめでとうございます

教頭 松岡 徹

擱筆できず168枚の年賀状を書いた。年賀状だけで、からくして、つながっている縁を大切にしている。

(或はネリリし キルルし ハララしているか) 谷川俊太郎『二十億光年の孤独』より  
私たちも眠り 起き 働いている 日常に幸せを感じる 今年もそんな生活をしよう みなさま  
おかわりございませんか 私たちは元気です (2025年 元旦)

42年前に私が書いた小説『三角形のなぞ』を読んだ それを大切に保存してくれた90歳の恩師  
と再会した まるで小説のような人生は半世紀すぎた みなさまおかわりございませんか 私た  
ちは元気です (2024年 元旦)

「新時代 Change ではなく update」 (FIFA world cup QATAR 2022) 私たちもそんな年にし  
たいと思います みなさまおかわりございませんか (2023年 元旦)

「信実とは、決して空虚な妄想ではなかった」 (太宰治『走れメロス』より) 人生100年時代の  
折り返し地点に立ってそう思う 今年も「愛と誠の偉大な力」を発揮しよう みなさまおかわり  
ございませんか (2020年 元旦)

“もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。” (魯迅『故郷』竹  
内好訳) 私たち夫婦二人三脚の轍も20年 みなさまおかわりございませんか (2019年 元旦)

「僻地交遊少 狡児教化難」子規が漱石に贈った漢詩の一節 彼らの生誕150年が過ぎた 私た  
ちもふたりのように多くの知遇を得た みなさまなくして 今のわたしたちはない 私たちは元  
気です みなさまおかわりございませんか (2018年 元旦)

「故有之以為利 無之以為用」 遊ぶ 学ぶ 泳ぐ そして歩く 妻は城の北へ 夫は東へ 道  
程が楽しい すれ違う人に顔見知りが増えた 職場に向かう教え子にも会う 松山に住んで10年  
が過ぎた 歩んでみてはじめて分かることがある 私たちは元気です おかわりございませんか  
(2017年 元旦)

私は、大体こんな意味のことを書いた。いつも近況報告をする。一方通行だが、楽しみにして  
いる人も数人いる。思えば遠くへきたもんだ。